

温泉も安心 人工乳房

手仕事 年商2億円

乳がんの手術で乳房を失った妹の声をもとに、オーダーメイドの人工乳房を開発した経営者がいます。ウロメディカルジャパン（名古屋市中東区）の社長、池山紀之さん（52）です。これまでも人工乳房はありましたが、ウロ社製は、見た目が自然で、ふつうに温泉にも入れます。来年は海外に進出する計画です。

（福田直之）

名古屋の企業が開発



池山紀之社長

名古屋を代表する劇場「御園座」。同じビルの3階にウロ社の名古屋プレストセンターがある。人工乳房の相談や採寸、製作をする場だ。

製作は、専門の技術者「プレストケア・アーティスト」による手仕事。石膏で両胸の型を取る。残った乳房の型を見ながら、失った方の乳房を

粘土で再現。その粘土をもとに、シリコン製の人工乳房を作る。弾力があり、色合いも丁寧に調整。完成には約4週間かかる。

出かける際、液体シリコンの接着剤を裏側に塗って張る。寝る前に外す。

肌との境目は目立たない。体を動かしても、入浴しても取れない。体形の変化にも対応



石膏で型を取った左胸を参考に、粘土で右胸の模型を作る。手前は人工乳房の完成品
|| 名古屋市中区の御園座ビル、福田写す

池山さんの妹（50）は、1994年に乳がんの摘出手術で、左の乳房を失った。5年後、再発しなかったことを祝い、家族で温泉へ旅行。ところが、妹は温泉に入らない。帰り道、不思議に思っていると、妹は「女性にとって乳房は、命とどちらを取るか悩むほど大切なもの。人工で作れないの」。失ったつらさ、喪失感の大きさを知った。

池山さんは大学卒業後、父の経営する名古屋市内の企業に就職。抜けた歯の代わりに金属や義歯で補うインプラント治療の材料や、人工の指など

「命ほど大切」乳がん手術の妹が助言

ウロ社は2006年度に人工乳房を事業化した。売上高は初年度に2千万円、08年度には8千万円。09年度は2億円を見込む。営業損益は赤字スタートだったが、08年度には単年度黒字に転換した。

全部ではなく、腫瘍の部分を取り除く「温存療法」が多い。しかし、全部を切除する患者がいる以上、「喪失感を埋めるのが必要だ」と、池山さんは力を込める。

国内には、乳房を失った女性が30万人以上いるとい

技術者不足なお高価

ウロ社は2006年度に人工乳房を事業化した。売上高は初年度に2千万円、08年度には8千万円。09年度は2億円を見込む。営業損益は赤字スタートだったが、08年度には単年度黒字に転換した。

全部ではなく、腫瘍の部分を取り除く「温存療法」が多い。しかし、全部を切除する患者がいる以上、「喪失感を埋めるのが必要だ」と、池山さんは力を込める。

国内には、乳房を失った女性が30万人以上いるとい

池山さんら男性スタッフは、胸に試作した人工乳房を取り付けては、入浴を繰り返した。「妻にあきれられたが、恥ずかしいなんて言う

3年がかりで妹専用が完成。妹は今では母とよく温泉に出かけている。

視点

普及へ低価格化も追求を

乳がんになったところのある女性を取材した。がんと分かったときは「もう、女でいられないと思った」そうだ。乳房の喪失は、心にも影響を与え、引っこ込み思案にさせる。男性が感覚的に理解することは難しいが、池山さんは妹の言葉から、その難題と向き合

けいざい 一話

ご意見や読みたいテーマを keizai@asahi.com にお寄せ下さい

完成した人工乳房を付けてると、ほとんどの女性が涙を流す。最近では、中国から訪ねて来る人もいるため、来年には上海と米国内に拠点を設ける予定だ。視野は世界に広がる。

ただ、大きな問題がある。30万円からという価格だ。製作する技術者が15人しかいないため、年間4000〜5000個しか作れない。

人材不足を解消するため、いま技術者の養成に力を入れている。4年後には3000人に増やし、年間1万個を製作できる態勢を整える。そうすれば1つ10万円ほどになるとみている。